

項目	重点目標	評価指標【成果指標・取組指標】及び目標値	期間	評定	考察(◇)及び 改善方策(◆)	評価資料	平均値	アンケート結果 (%)				
								4	3	2	1	
1 「確かな学力」を身に付ける教育の推進	○主体的に学ぶ授業づくり	生徒に思考力・判断力・表現力等の向上を目指し、確かな学力の向上を図ることができたか。(わかる授業の推進)	中間期	B	◇主体的に学習に取り組むように意識して声掛けを行った。また、計画的に教材研究を行い準備できた。◇NIEの活動を通して実践できた。◇毎時間の授業の中に、思考する時間、練り合う時間を取り入れるようにし、確かな学力の向上につながるよう努力をした。各教科でICTを活用して、復習等に利用できたと思う。◇生徒が自由に発言できる雰囲気を作られていると思う。◇ICTを使っでの授業に意欲的に取り組んだ。その結果学習トライアルに成果が見られた。 ◆英語でやり取りをさせる場面が少なかったように思うので、表現する場面を増やしていく。◆1学期の学習内容が計算領域であるため、習得させることが中心となったので、考えさせる場面を増やしていきたい。◆「主体的対話的で深い学び」について研究を深め、「分かる授業」へとつなげていくことが必要である。	教職員アンケート	2.9	12%	63%	25%	0%	
			年度末	B	◇ICTを活用した教材を毎時間作成し学力向上を図った。◇研究授業を見たり、見ていただいたりすることが、勉強になった。◇今後も継続指導が必要である。◇研究授業において、生徒が思考する場面でICTを効果的に活用し授業展開を工夫していた。 ◆中間期と比較して、否定的な回答が少しではあるが減っていることは良い。否定的な意見をなくすよう、きめ細かな指導をしていく。	教職員アンケート	3.0	12.5%	75%	12.5%	0%	
						生徒アンケート	3.3	40%	48%	12%	0%	
						保護者アンケート	3.0	20%	56%	24%	0%	
						教職員アンケート	3.0	12.5%	75%	12.5%	0%	
						生徒アンケート	3.0	11%	82%	7%	0%	
						保護者アンケート	2.9	12.5%	66.7%	20.8%	0.0%	
		○基礎基本の定着	生徒は基礎基本が定着したか。	中間期	B	◇暗記の仕方等を指導し、徐々にではあるが覚えようという意識が芽生えてきた。◇個人差があるが、期末テストの結果をみると、平均して合格点はとれている。◇生徒の現状に合わせた宿題のプリントを自作した。少し効果があったように思う。 ◆音とつづりの関係を計画的に指導し、生徒にとって暗記することの一助としたい。テスト結果から考察すると、個人差はあるが、授業で学習した内容の定着率は高くない。宿題の出し方を工夫し、定着率を上げていきたい。◆診断テストの結果を見ると基礎基本が定着しているとは言えないので、基礎基本の定着に向けて取組を強化していく。	教職員アンケート	2.9	0%	88%	12%	0%
			目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	C	◇徐々にではあるが、単語を覚えられるようになってきた。◇少人数ではあるが、学力差が大きいのが現状である。個人差への対応が必要である。◇学習トライアルでは、満点やそれに近い点を取る生徒もいた。 ◆考えるということが苦手な生徒がいると思う。その辺を高めることができる訓練や指導を継続することが大切である。◆普段から、できるだけ多く問題を解く機会を確保していく。粘り強く指導していく。◆主体的に学ぶことは大切だが、基礎的なことは覚えさせる。	教職員アンケート	2.6	13%	38%	50%	0%
		○言語活動の充実	言語活動の充実と教育内容の確実な実施に努めることができたか。	中間期	B	◇基本的なことを指導することで精いっぱいお互いの意見を表現させる場面の設定が少なかった。◇NIEの活動を通して実践することができた。また、教科指導においても、根拠を明確にして自分の考えを説明する活動を取り入れることができた。◇生徒に説明をさせたり教え合ったりする時間は確保できた。 ◆意見を表現する場面を意識して設定し、友だちの意見に対して反応できるようにし、対話的で深い学びにつなげたい。	教職員アンケート	2.9	12%	63%	25%	0%
			目標値:教職員の80パーセント以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇NIEの取組を中心に、意見を発表する場面を設定できており、各教科に良い影響を与えている。 ◇いろいろな場に応じた言語活動を工夫した。◆根拠を持って発言することには慣れてきたが、人の意見につなげて疑問点を聞いたり、自分の意見を発表したりすることはまだ不十分である。◆授業でも課題解決の予測を立てたり、短い時間でも自分の感想や意見を発表したりする場面を積み重ねていくことが必要である。	教職員アンケート	3.1	25.0%	62.5%	12.5%	0.0%
		○家庭学習の充実	家庭学習の習慣化に努めることができたか。	中間期	B	◇自主学習の手引きを作成・配布し、生徒の家庭学習の一助とした。◇休休みに宿題をする生徒がいる。その方が私自身も教えることができる面もあるが、小学校では宿題は家ですることを徹底しているようである。どのように対応すればよいか統一したい。◇クロームブックを使っての宿題を出したり、宿題の内容を工夫したりすることによって家庭学習の習慣化に努めた。◇ブロック対抗で自主ノートの提出を競い合うことや問題集を解くことも可にするなど家庭学習の習慣化に向けて工夫することができた。◆授業の導入を工夫することによって、更なる習慣化を図る。◆保護者との連携を強化して日頃の家庭学習の意識を高めていく。◆1学期を振り返り、生徒のためになる活動を継続実践していく。	教職員アンケート	2.8	0%	75%	25%	0%
		目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	C	◇宿題は、しっかりできている。しかし、それ以外の自主的な学習はそれほどできていない感がある。◇ほとんどの生徒はできているが、忘れてくる生徒もいた。◇自主学習の取組は差が激しい。◆キャリア学習を充実させ、目標を持たせることが大切である。◆クロームブック等の宿題で習慣化されてきていると思うが、タブレットを使って授業の予習をさせる。	生徒アンケート	3.1	20%	72%	8%	0%	
					保護者アンケート	2.6	8%	48%	36%	8%		
					教職員アンケート	2.9	0%	87.5%	12.5%	0%		
					生徒アンケート	2.1	4%	32%	32%	32%		
					保護者アンケート	2.4	4%	46%	33%	17%		

項目	重点目標	評価指標【成果指標・取組指標】及び目標値	期間	評定	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	平均値	アンケート結果 (%)			
								4	3	2	1
1 「確かな学力」を身に付ける教育の推進	○キャリア教育の充実	夢や希望をもちそれに向けて努力できているか。	中間期	C	◇キャリアパスポートを使って、学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行った。◇どの学年もまじめに宿題等を提出することができている。将来に向けて学習に取り組む姿勢は大切である。そういう点では、本校生徒の達成度は高い。◇高校説明会を行い、自分の将来の姿に興味・関心を持っているため、各種高校の体験入学に参加する生徒が増えている。◇全員ではないが、自分が進みたい道を考え、進学したい学校を目指して学習に取り組んでいる。◆具体的な夢を持たせるために様々な職種の人と関わることができるような場の設定をする。	教職員アンケート	2.6	0%	63%	37%	0%
		目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	C	◇キャリア教育は各学年で計画的に実施しているが、夢を持っていない生徒が多いように感じる。◇まだ将来のことが考えられず努力できない生徒もいる。◆働くことの意義ややりがいなどを生徒に伝えることができるような教育が必要である。◆キャリアパスポートを積極的に活用していく。	生徒アンケート	2.8	20%	52%	20%	8%
	○読書活動の習慣化	読書の習慣化に努めることができたか。	中間期	B	◇生徒の1学期の貸し出し冊数は達成しており、朝読書も継続しているため、昨年度より向上してきたといえる。◇図書室は本の整理がきちんとできており、環境は整っていると感じる。◇朝読書の時間、話したり席を立ったりすることなく、真剣に読書に取り組んでいた。朝読書の継続で習慣化がなされてきていると思う。◆家庭での読書習慣につながっていないことが課題であり、家庭と連携した活動をしていく。◆読書の楽しさを感じることができるような集会をする。	教職員アンケート	3.1	12%	88%	0%	0%
						目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇新刊の紹介や集会など活発に活動でき、毎朝しっかりと読書ができていた。◇基本的に毎朝読んでいるが、NIEやトライアル等のイベントがあると、読書タイムをカットせざるを得ない状況ではある。◇ブックウォークなどの委員会活動を通して、生徒に呼びかけた。◇生徒にとって、短編で読みやすい本がたくさん入っているため、少しずつ本に親しむ生徒が増えている。◆広報・図書委員で、クロームブック等を利用し、書店のポップのような短い紹介文と画像、本の書き出しを組み合わせ紹介していく。	生徒アンケート	2.9
	学校関係者評価員の所見	○漠然と勉強するのは苦しいかもしれない。将来なりたい自分に向かって進めればよいが、簡単に見つかる訳ではない。高校進学は身近な目標の一つなので、小さな目標を示して導いてはどうだろうか。○家庭での学習は、本人と保護者の意識の問題ではないだろうか。学校としては、3者面談等で家庭の現状を把握し、それぞれの家庭に合わせてアドバイスしていけばよいのではないか。	学校の対応	○1年生からキャリア教育を計画的に行っているが、将来の目標を明確にすることは容易でない。御指摘いただいたように、小さな目標を設定して、少しずつ学習への意識を高めていきたい。○中学生自身の意識を高めることが最も大切であると考えている。各教科で、学習への意欲や関心が高まるような授業を実践していきたい。また、今年度導入された一人一台の学習端末を活用し、生徒の多様化に対応していく。	教職員アンケート	3.4	37.5%	62.5%	0%	0%	
					生徒アンケート	2.9	36%	25%	29%	11%	
	○心に響く道徳の授業づくり	道徳的判断力を高め、豊かな心情及び道徳的実践力の育成に努めることができたか。	中間期	C	◇特別な教科道徳だけではなく、学校生活の中で様々な事案が生じた際に適切に対応することができている。◆道徳の授業を充実させるために、研修の充実を図る。時教の確保が大切。1学期はうまく取れなかった。◆教材研究をする。	教職員アンケート	2.5	0%	50%	50%	0%
		目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇計画的に実施することはできている。◇工夫して学級担任の先生方が取り組んでいる。(板書の工夫や心情バロメーターを使用するなど)◆授業実践を継続していく。	教職員アンケート	2.8	12.5%	50.0%	37.5%	0%
	○地域の素材や人材の活用	地域の素材や人材を活用した教育活動が推進できているか。	中間期	B	◇総合的な学習の時間において、地域の人材を講師としての活動ができている。◇コロナ禍で、その他の活動はできにくい状況であった。◆他の活動でも地域の人材を活用できるように人材バンクを整理していければよい。	教職員アンケート	3.0	22%	56%	22%	0%
		目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇総合的な学習の時間や防災学習において、講師の活用ができている。◆現在の活動を継続しつつ、新たな人材との関りを築いていく。◆福祉学習の領域で今後協力依頼をしていく。	教職員アンケート	3.0	25%	50%	25%	0%
○あいさつの展開	生徒会を中心として、地域全体で取り組むあいさつ運動を展開することができたか。	中間期	B	◇校内でのあいさつは、よくできていると感じる。部活動顧問や学級担任の指導が生きてきている。◇校長室・職員室前のあいさつの様子は、外部からも評価されている。校内でのあいさつの様子は概ねよい。◆校外でのあいさつについては、今一つであるという意見が聞かれるので、「あいさつができる内海中」を目指して指導していく。	教職員アンケート	2.6	0%	62%	38%	0%	
					生徒アンケート挨拶	3.4	44%	52%	4%	0%	
	目標値:教職員、保護者、生徒の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇朝夕のあいさつやお客さんが来校した時のあいさつなどよくできているが、校外という点では更なる向上が必要である。◆学校運営協議会を通して、地域の様子を把握し更なるあいさつの向上に努めていく。	保護者アンケート挨拶	3.3	44%	44%	12%	0%	
					教職員アンケート	2.8	12.5%	62.5%	12.5%	12.5%	
生徒アンケート挨拶	3.1	28.6%	53.6%	17.9%	0%						
保護者アンケート挨拶	3.1	33%	46%	21%	0%						

項目	重点目標	評価指標【成果指標・取組指標】及び目標値	期間	評定	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	平均値	アンケート結果(%)			
								4	3	2	1
2 豊かな心を育てる教育の推進	○インクルーシブ教育の推進	特別支援教育コーディネーターを中心とした校内推進体制の強化、充実を図ることができたか。	中間期	D	◇各教科で配慮をしながら指導することができた。◇配慮が必要な生徒がいると思われるが、それらの生徒について教員間で共有する時間がなかった。◆職員会議で個別の指導計画について検討する。	教職員アンケート	2.0	0%	25%	50%	25%
		目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	C	◇職員会で配慮を要する生徒の話し合いを行った。職期でも毎日生徒の情報交換を行い、共通理解を図ることができている。◆これからの時代は、生徒一人一人の特性に合わせて教育していくことが必要である。対応はそれぞれ違うので、全ての教育活動の中で多様な教育を進めていく。◆特別支援教育コーディネーターを中心に、生徒一人一人について全職員で共通理解を図り、それぞれの生徒に適した支援を行っていく。	教職員アンケート	2.4	0%	37.5%	62.5%	0%
	○人権を尊重する心の育成 ・いじめ防止	「学校いじめ防止対策基本方針」の周知と具現化に努め、いじめは許さないという強い気持ちを育てることができたか。	中間期	B	◇生徒の様子を見ると、いじめを認知することはなく、良い関係を構築することができていると思う。◆生徒の小さな変化を見落とすことがないようにしていく必要がある。◆いじめはどこにでも誰にでも起こりうることを念頭に細やかに関わっていく。生徒の日常生活に常に気を遣って観察を続ける。	教職員アンケート	2.8	0%	75%	25%	0%
		目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇複雑な人間関係を抱えている生徒もいるが、少しずつ成長している。◇SNSの使い方に関して生徒にも新聞記事を使っていじめ防止を考えさせることができた。◆一人一人の生徒をしっかり見つめ、変化を見逃さないようにする。◆教育相談をより充実させていく。◆教育活動の中で、相手の立場を考え、仲間とつながり雰囲気の良い学校を目指していく。	教職員アンケート	3.0	0%	100%	0%	0%
	・人権を尊重する心の育成	全教育活動の中で人権尊重の精神を養い、「差別しない」「差別に負けない」「差別を許さない」生徒を育成することに努めることができたか。	中間期	B	◇学校生活において、差別につながるような言動を確認することはなかった。◇身近な差別や偏見に気付くような講演会を持ち、人権・同和教育の授業も含めて考えさせるきっかけとなった。◆差別につながるような言動を確認した際には、適切な指導を行う。◆行事消化型の取組に終わることなく、教育効果を優先して計画・実践していく。	教職員アンケート	3.0	0%	100%	0%	0%
		目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇意見がぶつかったり、気が合わなかったりすることはあるようだが、人を見下したり、ばかにしたりするような様子は見られない。人権尊重の精神は少しずつ養われてきているようである。◇道徳・学活以外にも、新聞記事の人権問題を考える機会を持つことができた。◆知らないこと、無関心が差別を生むことを機会を捉えて話をしていくことを継続していく。	教職員アンケート	3.0	12.5%	75.0%	12.5%	0%
	・人権・同和教育の視点に立った学級経営	相手の立場を理解し、互いを思いやる暖かい人間関係を構築することができたか。	中間期	A	◇教職員間では、お互いが思いを共有して問題解決に取り組むことができている。生徒教員間もよい関係ができつつあると感じる。◇少人数であるがゆえの馴れ合いであったり、人間関係の固定化・序列化はある。◇保健委員会の中で、担当の日でなくても友達の仕事を手伝うという生徒がいた。◆更により良い関係を構築できるように努力していく。その場に応じて適切な声をかけていく。	教職員アンケート	2.9	12%	63%	25%	0%
			年度末	A	◇問題を抱えている生徒を受け入れることができる雰囲気がある。◇クラスの仲間の立場を理解して動いている生徒の存在で、教室で一緒に授業を受けることができるようになってきた。◆今後も温かい関わりを大切にしていこう。◆より良い人間関係を構築できるよう、相手のことを考えて行動できる生徒を育成していく。	生徒アンケート	3.6	60%	36%	4%	0%
		目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	保護者アンケート	3.2	32%	60%	8%	0%			
			教職員アンケート	3.1	12.5%	87.5%	0%	0%			
学校関係者評価員の所見	○自転車に乗った子供たちが遠くから「こんにちは」とあいさつしてくれる。あいさつの良さを改めて感じる。 ○地域は子供たちのためなら協力を惜しまないので、地域と共にある学校として特色あるカリキュラムを実践してほしい。	学校の対応	○生徒に地域の方々の声を伝え、今後も現在の良いあいさつが継続するように励ましていく。 ○今年度はコロナ禍のために、地域と共に行う行事ができなかったが、地域と共に生徒を育てることができる教育を実践している。	保護者アンケート	3.3	33%	67%	0%	0%		
		保護者アンケート	3.3	33%	67%	0%	0%				
○部活動の活性化	挑む心を育むたくましさ(意力・体力)の強化に努めることができたか。	中間期	A	◇部活動顧問を中心として日々の練習をがんばっている。郡総体では両部ともに優勝を果たした。◇日々仲間と声を掛け合いながら、部活動に励んでいる。◆意欲的な雰囲気が出学年にも引き継がれるよう指導を継続していく。◆今後の部活動のあり方については考える必要がある。	教職員アンケート	3.3	25%	75%	0%	0%	
		年度末	A	◇計画的・意欲的に練習に励み、活躍した。◇平日の練習時間は短くなったが、短い時間の中でも一生懸命部活動に励んでいる姿が見られる。◆部活動については、生徒や保護者に、今後の本校の方針を理解してもらう必要がある。	保護者アンケート	3.4	52%	40%	4%	4%	
	目標値:教職員、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	教職員アンケート	3.5	50%	50%	0%	0%				
		保護者アンケート	3.2	29%	58%	13%	0%				
○生徒指導の徹底 ・いじめ・不登校の根絶	一人一人の理解に努め、問題の早期発見、早期対応を図ることができたか。	中間期	B	◇気になることがあればすぐに情報共有をしている。◇複数の目で問題の早期発見に努めることができていく。◆生徒間の人間関係の把握、観察等、生徒指導的な目で常に観察する。◆少しの変化も見落とさないように努める。	教職員アンケート	3.1	25%	63%	12%	0%	
		年度末	A	◇生徒指導主事を中心に生徒をしっかり見つめ、早期発見・早期対応を図ることができている。◆現在の指導を継続していく。	教職員アンケート	3.4	37.5%	62.5%	0%	0%	
・学校生活の充実	学校生活を楽しく送ることができているか。	中間期	B	◇生徒と教師がよりよい関係を築き生徒は楽しく学校生活を送ることができている。◇学校行事が多くて、生徒のゆとりが少なくなっているため、疲れもみられるような気がする。◆問題を早期発見し、楽しく生活を送ることができない生徒を生み出さない環境を整備していく。◆困難な状況を抱えている生徒がいることを、常に頭に入れておく。	生徒アンケート	3.1	44%	28%	24%	4%	
		年度末	B	◇授業実践を中心にして、楽しく学ばせる努力をしている。◆学校が楽しくなくなる大きな原因は、「授業が分からない」とこと「友達との人間関係の悪化だ」と考える。これらの要因を排除できるように取り組んでいく。	保護者アンケート	3.4	52%	40%	8%	0%	
	目標値:生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	生徒アンケート	3.0	14%	75%	4%	7%				
		保護者アンケート	3.3	29%	67%	4%	0%				

項目	重点目標	評価指標【成果指標・取組指標】及び目標値	期間	評定	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	平均値	アンケート結果(%)			
								4	3	2	1
3 たくましい心身を育てる教育の推進	○命を守る教育の徹底	「自分の命は自分で守る」という意識を高め、危機意識や安全確保のために具体的実践力を育てることができたか。	中間期	A	◇4月に避難訓練を行った。生徒は真剣に訓練できた。◇救急基礎講習を実施し、AEDの必要性や一次救命処置の方法を学ぶことができた。◆自然災害はいつ起こるか分からないので、普段から臨機応変に対応できるような訓練を設定する。◆交通安全、水の事故、自然災害等、生徒に知識として伝える。	教職員アンケート	2.9	12%	63%	25%	0%
		目標値:教職員、生徒の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇避難訓練や防災学習など計画的に実践を積み重ね、危機意識が高まった。◆想定していく力が大切である。日頃から様々な状況を想定させて、どのような行動が必要なのかを考えさせる活動を実践していく。	教職員アンケート	3.1	12.5%	87.5%	0%	0%
	○健康教育の推進	家庭と連携し、早寝、早起き、朝ご飯、歯磨き、手洗いの習慣を定着させることができたか。	中間期	B	◇生徒の様子からは、比較的規則正しい生活を送ることができている。◇一部、習慣が身に付いていないのではないと思われる生徒もいる。◆家庭と連携して指導していく。生徒の登校時の手洗いが習慣化していて、手指消毒もこまめにしているため、早寝、早起きと生活習慣全般を合わせて考えさせる。◆クロームブックを使って保護者との連携を強化していく。	教職員アンケート	2.8	0%	75%	25%	0%
						生徒アンケート早寝、早起き、朝ご飯	3.0	32%	44%	20%	4%
		目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇定期的に保健だよりを発行し、保護者への情報発信に努めている。◇早く寝ること、朝ごはんを食べることができない生徒が数名いる。◆引き続き、保護者への情報発信を継続していく。◆学校保健委員会の取組として、保護者向けの講演会を実施する。	生徒アンケート歯磨き、手洗い	3.6	76%	12%	12%	0%
						保護者アンケート早寝、早起き、朝ご飯	3.0	28%	52%	12%	8%
	○防災・減災教育の推進	東日本大震災から学ぶ、生きる防災・減災教育の推進を図ることができたか。	中間期	A	◇4月には避難訓練を実施した。生徒は真剣に訓練に参加できた。職員で防災対策について時間をかけて話し合い共通理解を図った。◆地域と連携した具体的な訓練を設定する。◆道徳や学活の時間も利用し、考えさせたい。	教職員アンケート	2.9	12%	63%	25%	0%
						生徒アンケート	4.0	96%	4%	0%	0%
		目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇初の試みである地域合同避難訓練を行った。校内の避難訓練は定期的に行った。◇地域との防災学習ができたこと、講話での映像や講師の先生の話でよく理解できたと思う。◆全校のワークショップを行ったが、学級でも防災教育を行っていく。地域合同避難訓練を継続実践していく。	保護者アンケート	3.3	44%	44%	12%	0%
						教職員アンケート	3.6	62.5%	37.5%	0%	0%
4 特色ある学校づくり	○環境教育の推進 「海学習」の充実・深化	「海学習」の充実・深化を図りながら、家庭・地域と連携した環境教育を推進することができたか。	中間期	A	◇海学習は計画的に実施している。時間が限られているため、充実・深化させることができていない面もある。生徒が興味を持って行っているかという点について考えていく必要がある。◆文化祭の発表プレゼンをぜひ小学生や地域に発信していきたい。	教職員アンケート	3.5	50%	50%	0%	0%
						生徒アンケート	3.8	80%	20%	0%	0%
	目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇特色ある海学習の実践ができている。サンゴの学習を通して、環境について考えさせることができている。◆1,2年生の学習内容にもう少し環境に関する学習を増やしていく。もっと地域や外部に発信していく。	保護者アンケート	3.8	84%	16%	0%	0%	
					教職員アンケート	3.5	50%	50%	0%	0%	
					生徒アンケート	3.6	64%	36%	0%	0%	
					保護者アンケート	3.6	63%	38%	0%	0%	
	○ボランティア活動の推進	地域の一人としてのボランティア活動の推進を図ることができたか。	中間期	B	◇特に自主的に地域でのボランティアをしている様子は見られない。◇夏休みボランティア体験学習に参加したり、ビーチクリーンに熱心に取り組んだりした。◆生徒も他の活動で忙しく、地域のボランティア等に参加する余裕はない。◆あいさつ運動(朝清掃)、ちょこっとボランティアは継続する。	教職員アンケート	2.0	0%	25%	50%	25%
						生徒アンケート	3.4	44%	52%	4%	0%
	目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇新型コロナウイルス感染症の影響で、活動が制限されたこともあったが、清掃活動や奉仕活動を実践し、自主的に動くこととする場面が見られた。◆地域でボランティア活動をする機会がないので、必要であれば公民館や支所と連携を図っていく。	保護者アンケート	3.4	40%	56%	4%	0%	
					教職員アンケート	2.4	0%	37.5%	62.5%	0%	
学校関係者評価員の所見	○地域の行事(総会や伝統行事)を使って何か新たな取組ができないか。	学校の対応	学校の対応	○海学習では、サンゴの調査を行っているが、内海地区の主要産業でもあるアコヤ貝の母貝の学習を取り入れることが生徒に地元への興味や関心を高めることができるかもしれないので、検討していく。	生徒アンケート	3.3	43%	43%	14%	0%	
					保護者アンケート	3.3	38%	54%	8%	0%	

項目	重点目標	評価指標【成果指標・取組指標】及び目標値	期間	評定	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	平均値	アンケート結果(%)			
								4	3	2	1
5 教職員の資質の向上	○NIE教育の推進	組織の一員として積極的に推進活動に取り組んでいるか。	中間期	B	◇生徒に負担過重になっている面がある。今年度の1学期はやるべきことが多すぎて、中途半端な取り組みになってしまった感はある。◇新聞の記事選びに努めている。◇対話的な学びにつなげる取組ができた。◆NIEの趣旨を理解し、協力していく。	教職員アンケート	2.8	0%	75%	25%	0%
		目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇職員が協力して取り組むことができている。◇様々な場面に生かされている。◆生徒が新聞に対してどのくらい関心が高まったのか、ということを検証していく。	教職員アンケート	3.375	37.5%	62.5%	0%	0%
	○校内研修の充実	教育活動や校内研修を充実させ、教育専門職としての資質と指導力向上に努めることができたか。	中間期	B	◇GIGAスクール構想の1年目ということでクロームブックを使った教材を作成することに尽力した。◆今後も教材研究に励み、クロームブックの活用方法をより理解し、活用する。	教職員アンケート	2.8	0%	75%	25%	0%
		目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇授業研究をたくさん行い、教材研究に努めた。◆GIGAスクール構想に伴い、一人一台端末を使った授業について見識を深めていく必要がある。	教職員アンケート	3.0	12.5%	75.0%	12.5%	0%
	○教師としての人間性と専門性の向上	各種研修に参加し専門職としての資質と力量を高めるために自己研鑽することができたか。	中間期	C	◇GIGAスクール構想の1年目ということでクロームブックを使った教材を作成することに尽力した。◆今後も教材研究に励む。コロナ禍で、研修の機会がまだまだ確保されていないが、積極的に研修機会を求めていきたい。	教職員アンケート	2.4	0%	50%	38%	12%
		目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇それぞれ専門の教科について研究することができている。◇研修や講演会に参加することができた。◆生徒が楽しく学べる授業について研究を深めていく。	教職員アンケート	3.0	12.5%	75.0%	12.5%	0%
	○教職員の信用保持	服務規律の遵守し、信用保持に努めることができたか。	中間期	A	◇服務規律を遵守し信用保持に努めた。◆継続実践する。常に意識していく。	教職員アンケート	3.6	62%	38%	0%	0%
		目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇服務規律を遵守できている。◆定期的に自分の行動を振り返る機会を持つ。	教職員アンケート	3.6	62%	38%	0%	0%
	学校関係者評価員の所見	○NIE教育については、新聞の記事を見た。評価結果からも熱心に取り組んだ様子が伺える。			学校の対応	○2年間NIE教育に取り組んだ。思考力や表現力は徐々にではあるが、向上してきていると感じるが、まだ課題もあるので、更に生徒が育つように継続実践していく。					
	6 家庭・地域との連携	開かれた特色ある学校づくり ○家庭や地域との連携の強化	学校の取組みに対する情報発信と情報受信に努めることができたか。	中間期	A	◇学校だよりの発行とHPでの発信が随時できた。◆HPが充実するように計画的に作成する。保護者、家庭からの情報発信に努めていく。	教職員アンケート	3.3	38%	50%	12%
目標値:教職員、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA			年度末	A	◇ホームページや各種たよりにより、積極的に情報発信ができている。◆HPが充実するように計画的に作成する。保護者、家庭からの情報発信に努めていく。	教職員アンケート	3.1	25.0%	62.5%	12.5%	0%
学校関係者評価員の所見		○定期的な学校だよりの発行やHPでの情報発信お疲れ様です。			学校の対応	○今後も積極的に情報発信に努めていく。					
		学校関係者評価員の所見	○コロナが始まって、思うように学校活動ができない中、学校現場は大変だと思う。それでも生徒一人一人に心を配り、支援していただいていることに感謝している。			学校の対応	○地域の御期待に応えることができるように、今まで以上に地域と協力して生徒が育つ学校教育を実践していきたい。				